

被災地を支えた警察活動 自助共助をこれからも

——発災直後、9月6日の活動について教えてください。

すぐに制服ではなく災害時に着用する出動服に着替え、警察無線を持って、迷



本山 登さん

わず安平公民館へ向かいました。安平地区の自治会は防災意識が高く、災害時には公民館に集まることを周知するなど、初動要領を決めていました。ちょうど安平第1自治会の自治会長も来て、私に「頼む」と一言。発災後10分から20分くらいのことで混乱はしておりましたが、その一言で独居高齢者の対応を任せられたとわかりました。

安平町の駐在所は全部で4カ所あり、私がある安平駐在所のほかに早来・追分・遠浅駐在所があります。私は安平・早来瑞

穂・早来緑丘・東早来・早来守田の治安維持を任せられております。当時、駐在所管内には約70名の独居高齢者がいて、余震の心配もありましたので、急いで安否確認へ向かいました。中には家から離れるのを嫌がる方もいましたが、気にかけて駆けつけた近所の方が「ここは私たちに任せ

て、ほかの所に行つてあげて」などと言って協力してくださいました。5人の方を公民館へ運んだ頃に朝日が昇り始めました。その間も住民同士で連絡を取り合っており、自治会長から「安平・瑞穂・緑丘は全員無事だ」と報告を受け、安堵しました。

その後、苫小牧警察署のパトカーや、ふだんは事件捜査に従事している機動捜査係の応援も入り、守田と東早来の安否確認も終え、午前8時には全域の安否確認が完了

しました。

発災直後は、一人で大丈夫かなと不安でプレッシャーもありましたが、住民の方々の協力や住民同士の助け合いもあり、自分は一人居ないんだと教わりました。感謝しかありません。

——避難所や周辺の治安維持も課題となつたと思いますが、いかがでしたか？

その後も道内、道外を問わず続々と被災地に応援が入り、道警約3,800名、道外約3,600名の延べ約7,400名の警察職員が活動しました。

道外からの応援部隊には、パトロール・交通整理のほか、避難所での相談事の対応など、9月29日まで多岐にわたり警察活動の支援をしていただきました。不審者情報

もあり、避難して留守になった自宅を不安

に思う声も聞こえてきましたので、そうした住宅地などもパトロールしていただき、不安解消に努めていただきました。応援の警察官の方々にはしっかりパトロールしていただいたおかげもあり、この地区では空き巣などの被害はありませんでした。

——今回の災害を通して、災害時には何が大切だと思われましたか？

防災訓練が活かされましたね。皆さん、災害時には公民館へ行くものだとわかっていますから、「公民館へ行こう」と言つたらすぐ理解してくれましたし、避難に必要な物がどこにあるのかもご存知でした。震災前の訓練では、まさか実際に発生するなんて思っていませんでしたが、あとから思えば、訓練は本当に大事ななだと痛感しましたね。訓練があったからこそ、避難や避難所運営もスムーズに運んだのではないのでしょうか。訓練は以前は年1回でしたが、地震後の昨年は2回実施し、冬に災害が起ることを想定していました。

訓練だけではなく、平時からよく住民が集まります。結束が固い、素晴らしい地域

です。

避難所の運営や炊き出しでも自宅に大きな被害があった方までお手伝いに来てくれて、住民の皆さんの助け合いの姿勢には本当に頭が下がります。これからも皆さんと地域防災の取り組みに励みたいと思います。

——災害に対して心がけていることはありますか？

何が起きてもいいように備えています。想定外のことが起こつてしまうのが災害です。どうしても公助は遅れてしまうので、この地域みたいに自助、共助ができていく地域を増やしていくことが重要だと思います。

ここだと駐在所員が1名しかおらず、人員も限られていますので、警察としても訓練や啓発に積極的に取り組み、地域防災力を上げていくことも大切だと感じています。



安平市街